

ひらつか



守り続ける 伝統

独特の太夫語りと三味線が奏でる浄瑠璃に合わせ、愛と死が渦巻く歴史性のある物語を演じる、相模人形芝居前鳥座。

今回は市内で継承される伝統芸能、人形浄瑠璃の団体を紹介します。詳しくは2面へ。

目次	1～5面… 特集 人形に魅せられて…人形浄瑠璃の伝統を守る団体を紹介します。	8面…「写真リポート」「市長こらむ」「フォト歳時記」「がんばれ湘南ベルマーレ」	◎発行 平塚市 ◎編集 秘書広報課 〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号 ☎0463-23-1111 ☎0463-23-9467 http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/
	4～7面…募集・お知らせ・健康と福祉・スポーツ「子どもの健康」お知らせ掲示板	広報ひらつかのPDF版と電子書籍版やデジタルアーカイブは、市ウェブからご覧いただけます。	

人形浄瑠璃 豆知識

人形浄瑠璃は江戸時代に端を発する伝統芸能で、明治中ごろからは「文楽」とも言われ始めた。国の重要無形文化財で、ユネスコの無形文化遺産にも認定されている。

物語を語る太夫・三味線・人形遣いの「三業」で成り立つ。物語は公家や武家の世界を舞台にした「時代物」と、町人の世界を扱った「世話物」に分かれ、今も昔も人々を魅了している。

人形遣いの操法には三人遣いと一人遣いがある。昔は一人で操る一人遣いが主流だったが、人形をより人間の動きに近づけるために、享保19(1734)年に三人遣いが考案されたとされる。

三人遣いは人形の首と呼ばれる頭部と右手を操る主遣い、差し金と言われる長い棒で左手を操る左遣い、足金(右写真)で両足を操る足遣いに分けられ、3人の息を合わせるには高度な技術を要する。



一人遣いは人形と人形遣いの顔を耳紐(左写真)で結び、人形の足と胴を足木や胴金などで人形遣いの体に密着させて操る。

人形に魅せられて

長年にわたり、平塚市の伝統芸能「人形浄瑠璃」を継承してきた相模人形芝居前鳥座と湘南座。しかし、近年は担い手の高齢化や減少などの問題に直面している。存続が危ぶまれる中でも、高校生ら若者にも人形浄瑠璃の魅力を伝える活動をしている。

☎ 社会教育課 ☎ 35-8124

相模人形芝居 前鳥座

連動する3人の演技

四之宮公民館(四之宮3-20-26)に響く太夫の重量感あふれる語りと三味線の甘美な音色。浄瑠璃に合わせ踊る2体の人形を操る相模人形芝居前鳥座は一年を通して練習してきた演目『壺坂観音霊験記』に熱心に取り組む。

県の重要無形民俗文化財に指定される前鳥座は、古くは四之宮人形と呼ばれ、四之宮の鎮守、前鳥神社への芝居奉納を江戸時代の中ごろから行っていた。第2次世界大戦などで、活動を中断していたが、昭和27年に地元の有志らによって活動を再開。33年には前鳥座の名称を与えられ新たな一歩を踏み出した。前鳥座が演じる『壺坂観音霊験記』は、目が見えなくなった沢市とその妻お里の深い愛情を描いた世話物の名作だ。「お里が泣く場面では、手で顔を覆うだけではなく、着物

心を持つかのがつとく

「人形の左手を遣い手の右手で操作するんだ。動きが逆になるから難しいんだよ」と話すのは左遣いを任される田邊純夫さん。左遣いは主遣いより後ろに一步引いて操るため、人形の体に隠れて、手先が見えないこともある。「両手を合わせて拝む動作は右手を

の袖を左手で抑えたり、崩れ落ちて泣いたりすることで、さらに色気が増すんだ」と表現の細やかさを語るのは主遣いを担当する鈴木文雄さん。胴串と言われる首を支える棒を主遣いは左手で持ち、右手で人形の右手を操る。「太夫の語りなど演目を全て、主遣いは頭に入れないといけないんだ」と苦労を語る。人形の動きの中心を担う主遣いは、自分の体さばきや人

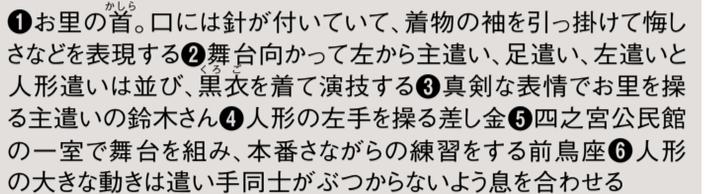
形の首の動きで左遣いと足遣いに指示を送っている。「人形の首を左に動かせば左遣いが左手を動かし、主遣いが足を後ろに動かせば足遣いが人形の足を後ろに動かす。主遣いの合図のもとで人形は動いている」と説明する鈴木さん。主遣いは十分な修行を積まないとい人形を自然に動かせない。「これからもっと勉強しないとイケないな」と鈴木さんははにかむ。

操る主遣いと息を合わせないといけないから、練習の繰り返しだね」と苦労を語る。刀などの小道具を出し入れする役目も担うため、主遣いの動きを把握していなければならぬ。足遣いは人形遣いの始まりでもある。常に中腰で操るため、体にも負担がかかる。女性の人形には足がないため、着物の裾さばきだけで歩いているように見せるのは相当な訓練が必要だ。

足遣いは主遣いと左遣いの間に立ち、自身の右腕を主遣いの腰に当て、指示が分かりやすいようにしている。足遣いを担当する相原和夫さんは「主遣いが足を動かすと、遣い手の腰がカクッと動くのが分かります。指示を見逃さないようにするためです」と説明する。主遣い・左遣い・



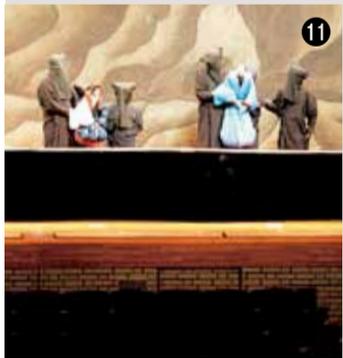
練習風景



①お里の首。口には針が付いていて、着物の袖を引っ掛けて悔しさなどを表現する②舞台に向かって左から主遣い、足遣い、左遣いと人形遣いは並び、黒衣を着て演技する③真剣な表情でお里を操る主遣いの鈴木さん④人形の左手を操る差し金⑤四之宮公民館の一室で舞台を組み、本番さながらの練習をする前鳥座⑥人形の大きな動きは遣い手同士がぶつからないよう息を合わせる



7 人形が一番きれいに見える「型」は人形遣いの見せ場8『壺坂観音霊験記』の終盤、沢市とお里の踊りは山場の一つ9ずしりと響く三味線の音で感情や情景を表現する10舞台に向かって右側の小さな舞台は「床」と呼ばれ、「太夫」と「三味線弾き」が浄瑠璃を演奏する11人形遣いの手前に手すりを置いて、人形が地面を歩いているように見せる



足遣いの3人が連携した動きをするので、まるで心を持って踊っているような人形の動きが生まれる。「人形が頭で考えたかのように、左手も足も動かさない」と語る田邊さん。人形の自然な動きを見せるため、稽古に熱が入る。

◎人形好きが集う場所

平成27年11月15日に中央公民館で開催されたひらつか民俗芸能まつりは、市内の文化団体が1年間の成果を発表する舞台だ。

しかし、その舞台裏では高齢化という大きな問題を抱えていた。24人が所属する前鳥座の多くは60〜70歳代で、高齢化が進んでいる。「前鳥座は江戸時代から伝わる伝統があるからね。次の時代へ継承していくことがわれわれの使命なんだ」と座長の田辺功さんは苦悩する。

以前は四之宮の在住者だけで構成していたが、現在は少子高齢化の影響で四之宮在住者以外の方でも入れるように門戸を広げている。児童・生徒ら若者に人形浄瑠璃を知ってもらおうと県立平塚中等教育学校でのワークショップや市が開催する芸術文化こども体験事業で前鳥座は講師を担う。「まず関心を持ってもらえたらうれしいんだけどね」と話す田辺さん。「伝統を継承する」と言うけど、人形遣いを楽しんでもらうことが一番。僕らもみんな人形好きの連中が集まり、和気あいあいと活動しているだけだよ」と笑顔を見せた。

共存する二つの操法

1体の人形を3人で操る三人遣いの前鳥座と、一人遣いの湘南座の二つの人形浄瑠璃芝居が平塚市内に共存する。「一つの市に共存するのは全国的に見ても珍しいです」と市社会教育課の中田琴美主任は話す。

江戸時代から活動を続けてきた三人遣いの前鳥座。一方で、女子校だった県立高浜高等学校の文楽部が昭和47年に活動を始めた当時、取り入れたのが乙女文楽と言われる一人遣いだった。文楽部の講師を務めた乙女文楽の継承者、桐竹智恵子さんは県立茅ヶ崎高等学校でも講師を務め、両校の卒業生らで湘南座が旗揚げされたことで、三人遣いと一人遣いが共存することとなった。

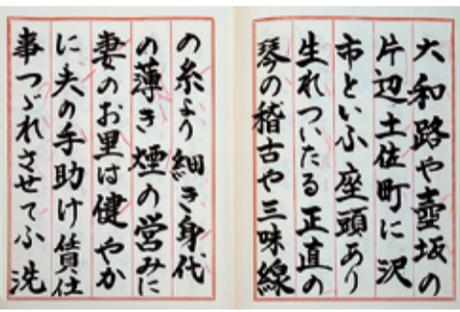
前鳥座は前鳥神社例大祭、湘南座は平塚八幡宮のぼんぼり祭りなどでそれぞれ演じている。市が開催する7月の郷土芸能大会、11月のひらつか民俗芸能まつりでは、2団体が競演し会場を沸かせている。

人間のような繊細な動きを見せる三人遣いと、速く大胆な演技を得意とする一人遣い。「操り方の違う二つの団体を比較して鑑賞してみるのは面白いのではないのでしょうか」と中田主任は魅力を語る。

語りで引き込む太夫

「最初の2、3行は物語の序曲を表すからしっかりと語ることが大切」と話すのは前鳥座で太夫を担当していた坂本美穂さん。一度聞いたら耳に残る太夫の長い語り。太夫は演目の登場人物全てを一人で語り分け、さまざまな光景を明らかにする。人形遣いに興味があった坂本さんは昭和59年に人形遣いとして前鳥座に入り、平成5年から太夫に転身。太く通る声で公演を支え続けた。

「僕が自分で書き写したものだ——」
取り出したのは、初めて覚



床本(台本)には要所に書き込みがある

えた『壺坂観音霊験記』の床本。3回つぎはぎしたという床本は使いこまれていながらも、きれいに保管されていた。しわが残る表紙をめくると裏には御朱印が押されていた。「太夫を始める時に『壺坂観音霊験記』の話に出てくる奈良高取町の壺坂寺にお参りしたんだ。『上手にできますように』ってね」と当時を振り返る坂本さん。お参りのかいもあり、始めて3カ月後の四之宮公民館まつりの初舞台は納得の出来だった。

◎教わった言葉の大切さ

しかし、続いて習った時代の傑作と言われる『絵本太功記』では、壁にぶつかって。「どこから声を出せばいいかわからなかった」と話す。そんな折に教わったのは、義太夫として名をはせる竹本土佐子師匠だった。

「なんでも三味線の音に合わせていて師匠に指導されたよ。三味線は悲しい時はあえて派手に弾き、語りはぐっと

こらえて下から声を出す。太夫と三味線がお互いに強弱をつけてお客さんを引き込んでいく義太夫節を教わった」と話す。坂本さんは言葉のなまりや役の語り分けなど多くのことを師匠に教わった。「褒められたのは、初めてお会いたした時に『いい声をしてるわね』と言われた1度きり。厳しい中にも優しさのある師匠で、言葉一つの美しさを教わった」と目を細める。

◎新たなやりがい

言葉の美しさをあらためて感じた坂本さん。師匠の教えや前鳥座の公演をする中で太夫の奥深さを知り、これからという時に病気を患い、太夫はできなくなってしまう。道半ばでの引退に心残りがあった。しかし、治療を続ける中でも前鳥座の稽古に足を運び、稽古を見学に来た小学生に床本を片手に太夫語りを教える姿は生き生きしている。「僕みたいなおせっかい者がいないと前鳥座は成り立たないからな」と笑顔を見せる坂本さん。その声と語りは今も前鳥座を支える。

湘南座 一心同体で



現在、9人で活動する湘南座は、県立高浜高等学校などの文楽部出身者らが卒業後も文楽を続けたいとの思いから平成2年に旗揚げした。女性が中心で20〜60歳代と幅広い年代が活動する。湘南座の特徴は人形を一人で操る一人遣いだ。

「心掛けていることは人形の自然な動き」と話すのは湘南座の中村恵子さん。

一人遣いは女性でも扱えるように大正末期に考案され、「乙女文楽」とも言われている。一人で操れる人形とはいえ、重たいものでおよそ8結もあり、持つとずしりと重さが伝わってくる。

「初めは振り覚えるために人形を付けずに踊りますが、人形を付けてみるとさながら、ロボットのようなきになつてしまいます。意識を常に人形に向けて演じない



人形をつなぐ足木

といけません」と自身が演じることと人形を演じさせることの違いを話す中村さん。

一人遣いは人形の首や胴を耳紐や足木などで遣い手となし、操る。遣い手の顔が右を向けば、人形の首が右を向くように遣い手の動きがそのまま人形に伝わる仕組みに

楽しく学ぶ人形浄瑠璃

一般の方にも人形浄瑠璃の醍醐味を味わってもらおうと、まちづくり財団は平成26年度からワークショップ「人形浄瑠璃養成講座」を開く。学校や仕事、家事が終わった後でも市内外から受講できるように夜間に開かれている。



学生のころに舞台芸能を鑑賞していたという酒井照子さん(写真中央)は今年度初めて受講する。「子育てが一段落したこともあり受講しました。見るだけではなく、人形を操ってみたかったんです」と受講の動機を話す。「体全体を動かして人形を操るので楽しいですね」と笑顔を見せる。

湘南座の指導のもと、一人遣いを学ぶ。練習する演目は『寿式二人三番叟』。受講生は昨年12月から3月にかけて12回、踊りの振りや人形の扱い方を学び、3月15日(火)午後7時からの最終回では、これまでの練習の成果を市民センター3階大会議室で発表する。

談笑しながら練習する酒井さんは「覚えることが多く大変だけど、自宅でもイメージトレーニングをしたいと思います」と発表会に向けて意気込む。

講師を務める湘南座の城田雅江さんは「初めは何だか分からないと話していた受講者も、だんだんと形ができてくるんですね。でき始めた受講生を見ると私たちができたようで楽しく感じます」とほほ笑む。

まちづくり財団文化事業課 ☎32-2237

なっている。操作しやすい反面、1人で全てを動かす大変さと遣い手自身の動きにとらわれてしまう難しさがある。座員の城田雅江さんは「手を出す時にも人形の目線が人形の手先を向くように心掛けています。習い始めたころはよく『目線』と師匠に注意されました」と振り返る。

中村さんと城田さんは高浜高校在学時に人形浄瑠璃を始め、座の旗揚げ後から活動を続ける。共に人前で演じることは緊張するから苦手だという。中村さんは「人形が演じているという意識を持つことで、舞台上立つことができている。お客さんの感激した声を聞くと『やってよかったなあ』と思うし、またやってみようという気持ちになります」と笑顔を見せる。

つくっている。舞台と客席との距離では分からない、人形の手足が動く仕組みを知ってもらおうという取り組みだ。「一人遣いは人形に工夫がないと操れません。人形の仕組みをお見せすることで、興味を持ってもらえるのではないのでしょうか」と湘南座座長の宮川利男さんは話す。また、湘南座は高浜高校文

楽部やまちづくり財団が開いている人形浄瑠璃養成講座(右囲み記事)で講師として、人形遣いを教えている。「地域に根差した文化や伝統をいかに多くの人に知ってもらいたい、大切にしたい。そして支援してもらえないようにこれからも努力していきます」と宮川さんは力を込める。

地域に根差す文化に

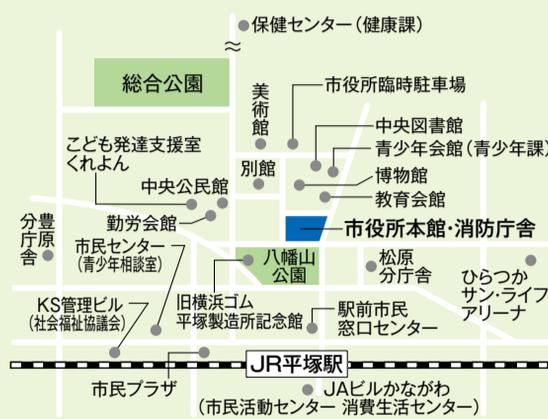
湘南座はひらつか民俗芸能まつりの公演後に、鑑賞した方が人形を近くで見られる機会を



湘南座が演じる寿式二人三番叟。鈴を鳴らす種まき五穀の仕草は五穀の種を祈願する。

応募方法

- 募=応募方法 (応募が必要です)
- 問=問い合わせ
- 必要事項とある場合、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号をご記入ください。
- 市役所への郵便物は、〒254-8686平塚市役所〇〇課で届きます。
- 募集開始日の記載がない場合、2月22日(月)午前8時30分から、受け付けます。
- メールの応募の場合、city.hiratsuka.kanagawa.jp を付けてください。



記入例

往復はがき		郵便・ファクス・メール
住所	イベント名 郵便番号 住所 全員の氏名 電話番号 その他の事項	イベント名 郵便番号 住所 全員の氏名 電話番号 その他の事項
氏名	返信	往信

募集

応募方法は

条例の素案への意見

ツインシティ大神地区の地区計画が都市計画決定されたことにより、市地区計画建築物条例の一部を改正して、同地区を条例に加えられます。案の内容は2月19日(金)3月22日(火)に、図書館や市ウェブなどで閲覧できます。意見・必要事項(団体の場合は団体名・代表者名も)を、郵送・ファクス・メールまたは直接、2月19日〜3月22日に、本館6階の建築指導課 ☎21-9732 FAX 21-9769 kenshi@city.hiratsuka.jp

社会教育委員
任期は6月1日から2年間。2人(選考)。次の条件を満たす方①市内に1年以上

教育委員会の嘱託員
学芸事務補助1人(選考)。採用は5月1日以降で、雇用期間は1年度以内。3月11日(金)に試験をします。

豊原分庁舎1号館2階の教育総務課 ☎35-8113や市ウェブなどにある受験申込書を、直接、2月19日(金)3月4日(金)の平日、午前、

高浜高校 文楽部 再び舞台へ



昭和47年に人形浄瑠璃を始め、40年以上活動を続ける高浜高校文楽部は、平成23年以降、部員ゼロとなり、休部状態が続いていた。しかし27年11月、中央公民館で開催したひらつか民俗芸能まつりで、高浜高校として7年ぶりの舞台を踏んだ。

「すごく緊張しました」部長の原田達海さんは、ひらつか民俗芸能まつりの演技を振り返る。復活のきっかけは3年生の森ゆうさんだった。平成26年6月に当時2年生の森さんは顧問の程島敏博先生の勧めで、七夕郷土芸能大会を見に行った。「森さんがもととの文化に興味があり、文楽をやりたいということの人伝いに聞いていたんです」と程島先生は振り返る。森さんは初めて人形浄瑠璃を目の当たりにし、その魅力に引き込まれ



原田達海さん(右)を見て学ぶ藤間ゆきのさん

た。湘南座の練習に誘われてから、ますます夢中になった。8月には和の文化に興味があったという当時1年生の原



練習の合間に談笑する城田雅江さん(中央)ら

田さんも加わり、湘南座の稽古や人形浄瑠璃養成講座で力をつける日々。湘南座の公演でも後見としてサポートし、下積みを積んでいく。

27年4月には、日本舞踊を習っていた藤間ゆきのさんと和の文化が好きな金子和樺さん、仮入部の時に見た演技がカッコ良かったという飯島萌さんの1年生3人が新たに入部し、本格的に部活動として校内で練習を始めた。

高浜高校の卒業生で在学当時、部になる以前の同好会で活動していた湘南座の城田雅江さんは、休部していた文楽部が活動を再開することを聞き、「びっくりした」と話す。「休部状態にも関わらず、なぜ」と思いました。後で聞く

と先生が毎年、部活紹介の時に過去の公演の映像を見せてくれていたんです」と学校の心遣いに感謝する。

◎受け継がれる思い

卒業生でもある湘南座の指導を受けながら稽古を重ねる5人の部員。ひらつか民俗芸能まつりで、ついに裏方も含めて部員全員で舞台を踏んだ。披露したのは入部以来、ずっと練習してきた『寿式二



人三番叟』。儀式的舞踊として幕開けに披露する二人三番叟は、今日の舞台が無事に務まるように、舞台を踏み清める意味を込めて演じられる。しゃりんしゃりと右手に持つ鈴を打ち鳴らし、種まきの仕草をする森さんと原田さん。堂々とした演技に会場は大きな拍手に包まれた。「幕が下りた後、拍手を聞いて『やったな』という気持ちでした」と原田さんは笑顔を見せる。

現在は、2月21日(日)の須賀公民館まつりに向けて『傾城阿波の鳴門』を練習する部員。二人三番叟と違ってストーリー性があるので、感情表現が難しい」と原田さんは苦悩する。練習の合間は笑顔が絶えない和やかな雰囲気だが、浄瑠璃が流れると凛とした表情を見せる。

森さんの引退後、最年長となった2年生の原田さんは中心となって文楽部を引っ張っている。かつて所属した文楽部の姿に湘南座の中村恵子さんは「やってみたいという生

スマホで見る 平塚の人形浄瑠璃 ひらつかビジョン

市内で人形浄瑠璃を継承する団体の活動を東海大学の大学生リポーター2人がレポートします。SCN湘南チャンネル。毎週土曜日、午後7時30分～7時45分。毎週日曜日、午後1時45分～2時。初回放送は3月5日(土)。YouTubeの「神奈川県平塚市公式チャンネル」でも配信します。スマートフォンやパソコンでご覧ください。

徒たちが出てきたことはいずれです。熱心に練習してきていますし、ここから文楽部の伝統が続いていってほしいです。熱心に練習してきていますし、ここから文楽部の伝統が続いていってほしいです。熱心に練習してきていますし、ここから文楽部の伝統が続いていってほしいです。

8時30分～午後5時に、同課へ。

ビジネスマナー講座

3月14日(月)午前9時30分～午後4時。勤労会館。市内在住・在勤・在学の39歳以下の方30人(先着順)。

氏名・性別・年齢・就職状況を、電話・ファクスで、2月19日(金)から、産業振興課☎21-9758 FAX21-9759へ。

就職に役立つパソコン講座

3月23日(水)～25日(金)、全3回、午前9時30分～午後5時。勤労会館。市内または近隣市町村在住で、就労を希望する15～39歳の方15人(先着順)。

☎ 電話で、2月19日(金)から、県西部地域若者サポートステーション☎0465-324115へ。

春休みに囲碁を覚えよう

子ども入門教室を開きます。3月26日(土)～31日(木)、全5回、午前9時30分～11時30分。市民センター。日程の3日以上に参加できる小・中学生の方40人(先着順)、新小学校1年生も応募できます。

必要事項・学校名・学年を、はがきで、〒254-0045見附町15-1まちづくり財団文化事業課☎32-2237へ。

暮らしの講座

電力の小売り自由化を解説します。3月18日(金)午後2時～4時。市民活動センター。50人(先着順)。1歳以上の未就学児の保育も4人まであります。

☎ 「講座申し込み」・必要事項

項・保育希望の有無を、電話・メールで、市民情報・相談課☎20-5775(jousou)へ。

地域の行事に役立つイベント用品を貸し出します

4～9月の先行予約を受け付けます。貸し出し期間は5日以内。抽選。先行予約期間の終了後は先着順。貸出品はポップコーン機、綿菓子機、かき水機など。

☎ 電話で、2月29日(月)までに、協働推進課☎21-9618へ。

講演 鉄道がつなげる可能性と未来、旅する幸せ

3月8日(火)午後1時30分～3時30分。海老名市文化会館(海老名市上郷476-2)。330人(抽選)。

☎ 電話で、2月29日(月)までに、県交通企画課☎045-2106190へ。県ウェブからも応募できます。

マリンバとピアノのコンサート

3月13日(日)午後2時～3時30分。旧横浜ゴム平塚製造所記念館。60人(先着順)。1500円、小学生以下500円。

☎ 電話で、出演者の田村☎090-9346-4099へ。

渋谷川桜まつりフリーマーケットの出店者

4月3日(日)午前9時30分～午後3時。20店(抽選)。1000円。必要事項・出店内容食品は除くを、往復はがきで、3月10日(木)までに、〒254-0081豊田町木692-5渋谷川桜まつり実行委員会の岸☎53-2181へ。